

## 第70回全日P山形大会参加報告

- 1 日 時 令和4年8月26日(金)～27日(金)  
2 参加者 浜松市P連 8名参加  
3 会 場 分科会(26日) 伝国の杜 置賜文化ホール(米沢市)  
全体会(27日) 山形市総合スポーツセンター(メイン会場／山形市)  
4 内 容

### (1) 分科会報告(第6分科会 情報教育)

#### ① 基調講演「夢は、努力でかなえる」(葛西紀明氏)

8回のオリンピックに出させていただいたが、金メダルはとっていない。今でも現役を続けている。また、小林陵侑選手や伊藤有希選手の所属する土屋ホームスキーネットで監督をしている。銀メダルを皆さんに手に取ってみていただきたい。

幼いころは体が弱かった。体力をつけるためにマラソンを始めた。足は速かった。冬はクロスカントリーをした。スキージャンプもおもしろそうだと思ったが、お金がかかるのでできなかった。隠れてやっていたところコーチの目に留まりやらせてもらえるようになった。いつも岡部さんのおさがりの道具を使っていた。貧乏だというハングリーゲーム精神が強くなる一因だったかと思う。【レジェンド話その1】中3のとき、ある大会のテストジャンパーとなつた。その時の記録が、優勝者の記録よりも飛んでいたため、新聞に大きく載った。高3の時にスランプになつた。母が手紙を書いてくれた。その手紙は今でも宝物になっている。【レジェンド話その2】地崎工業というスキージャンプで有名な会社があった。憧れの秋元正博選手がいた。中2の時に、その地崎工業から内定をもらつていた。

初めて出場したアルベールビルオリンピックの直前、V字飛行を練習させられた。リメハニエルオリンピックの時、金メダルをほとんど手中にしていたが、最後の原田選手の失速で銀メダルとなつた。(原田～。) 長野オリンピックのときは、団体メンバーに選ばれなかつた。原田選手はもらつた。スランプに陥つた時、母が手紙をくれた。その手紙が心の支えとなってスランプを乗り越えられた。

葛西選手がレジェンドといわれるようになつたオリンピックでの活躍や幼いころの思い出などを面白おかしく話していただきました。初めてオリンピックのメダルを触つたことも思い出になりました。

#### ② パネルディスカッション「情報化社会を生きる術を身に付けるには」

須貝(米沢市教育委員会課長補佐)：20年前と今とでは、情報機器がより身近なものになっている。オンライン授業が始まったが、課題も出てきている。

梅津(九里学園高等学校教諭)：高校でのICTを活用した授業の様子の紹介。教員側のメリットは、視聴覚教材が簡単に使える。アンケートの集計がやりやすくなつた。生徒側のメリットは、国外・海外の人とつながることができる。過度の依存が心配である。

寒河江(公認心理士・臨床心理士)：スマホを使つてると眠くなるのが遅くなる。

脳は整備途中的段階である。→ 10代に自己コントロールを求めるのは無理である。主導権は大人が持つ。健康管理の問題であると認識する。スマホなどを罰にもご褒美にもしない。

渡部（米沢警察署少年補導統括官）：トラブルの事案紹介。誰もが被害者にも加害者にもなる。ルールを学ぶ場が大人にも子供にも必要。

梅津：昼夜逆転になった子供がいた。（現在の学校ではない）ピアサポートで対応した。

寒河江：依存と犯罪被害の関連がある。スマホの世界では、自分の中がほぼそれだけになる。→ 視野が狭くなる。セフティネットは多種多様が望ましい。子どもたちには、休息の取り方を教えてほしい。気分転換ではなく、何も「しない」という休息が大切。

寒河江氏の10代の脳は整備途中であるため、10代に自己コントロールを求めるのは無理。健康管理の問題として取り組むという視点は、スマホの使い方を考えるうえで大切な視点であると感じました。

## (2) 全体会報告

### ① 歓迎アトラクション

朝倉さや（民謡）、ほら貝、徳内ばやし、花笠踊りなどのパフォーマンスで盛り上げてくれました。

### ② 挨拶

- 金田淳日P会長：「学び」を止めない。
- 船橋吾一実行委員長：人とひとのつながりを」体感しよう！
- 文科副大臣、山形県知事、山形市長から挨拶をいただきました。

### ③ 講演会

- 講師 飯森 範親 氏（山形交響楽団桂冠指揮者）
- 演題 「一本のタクト」は、人の心を豊かに幸せにするアイテム ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに

自分の人生を振り返り、様々な人とのつながりがあったことを話していただきました。幼いころの桃泥棒の思い出、父の知り合いの音楽プロデューサーとのつながりなど興味深いお話をしました。また、感謝の心を口に出すことを大切にしているという言葉が心に残りました。さらに、山形県のいいところをたくさん教えていただいた講話でした。その後、1時間ほど交響楽団の生演奏を聴かせていただきました。充実した講演会でした。

（文責：大澤）